

こたまコラム (矢作新報社への寄稿内容)

寒さ厳しい日々が続いておりますが、皆様に於かれましては如何お過ごしでしょうか。

さて、今さら私が言うまでもなく、本県は自動車産業を中心とした産業立県としてこれまで発展してきましたが、その自動車の利用に関する事項として、昨年も含めて、本県は交通事故死者数が連続16年ワースト一位という不名誉の状況が続いております。

これまで「何としてでもワースト一位返上を」との想いで全県を挙げて取り組み、その結果、昨年の死者数は189人と一昨年前より11人少なく、1950年以来68年ぶりに200人を下回ったものの、残念ながらワースト1位返上には至りませんでした。

では、何故本県ではこれほど交通事故死者数が多いのか分析してみると、自動車保有台数、道路実延長及び運転免許人口の交通関係指標が全国的に見て高いことに加え、自家用自動車の利用割合が他の大都市圏に比べて高いこと等の本県独自の交通環境が影響していると考えられる訳ではありますが、自動車産業を基幹産業とする本県としては、何が何でもワースト1位を返上すると共に、交通死亡事故そのものの撲滅に向けて取り組んで行く必要があると考えます。

こうした事から、昨年12月の愛知県議会本会議において、所属している「新政あいち県議団」の政策調査会長として代表質問をする機会を頂きましたので、県政各般の課題の一つとして、交通死亡事故撲滅に向けた取組強化を訴えさせて頂きました。

今後も高齢者やドライバー対策・ながらスマホ対策・歩行者保護対策を重点に、更に効果的な啓発を促すとともに、歩道設置・交差点の改良など道路環境の整備や、自動車安全技術の開発促進・普及啓発など、様々な対策を講じるよう働きかけてまいります。



愛知県議会議員

こたま よしかず

樹神 義和 